

岩手県の復興道路

～三陸がつながる。

日本各地や世界とつながる。

ひとつになって 更に前に進む。～

岩手県 県土整備部 道路建設課

1. はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波により、岩手県では沿岸地域を中心に壊滅的な被害を受けました。その中で、沿岸部の高規格道路の開通済み区間は、避難路や迂回路として避難や救援・救助活動に利用され、まさに「命の道」としての機能を果たしました。

岩手県では、三陸沿岸地域の縦貫軸と内陸部と三陸沿岸地域を結ぶ横断軸の高規格道路の全線整備を岩手県東日本大震災津波復興実施計画において「復興道路^{*1}」と位置付け、国等に対して要望活動を行ってきました。

国は復興道路の整備を復興のリーディングプロジェクトに位置付け、早期の全線開通に向けて整備する意向を表明し、発災前時点において整備中であった約93kmに加え、未着工であった約187kmを平成23年11月に新たに事業化しました。そして、東日本大震災津波から10年目の令和3年12月に、復興道路の全線開通を迎えました。

本稿では、岩手県内における復興道路の整備の歩みと開通による整備効果をご紹介します。

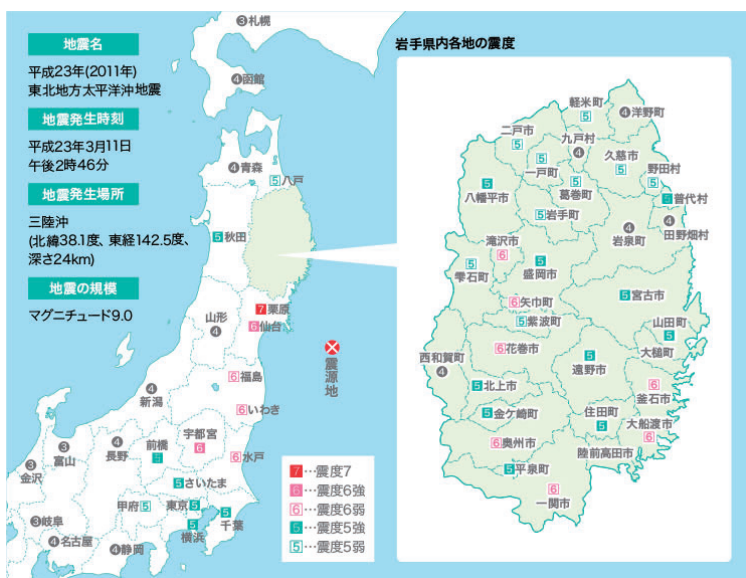


図1 東日本大震災津波の概況
(出典：いわて震災津波アーカイブ)

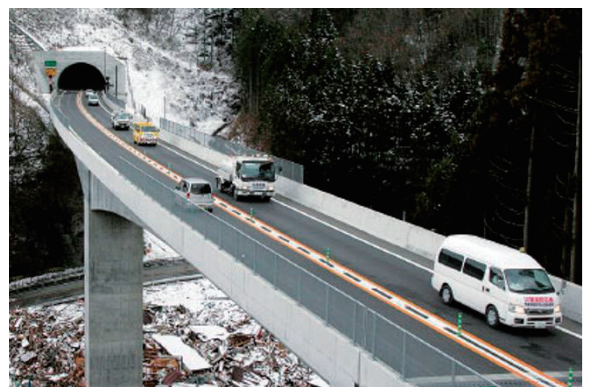


写真1 「命の道」としての役割を果たした復興道路
釜石山田道路 (H23.3.5 開通)

^{*1} 国では縦貫軸を「復興道路」、横断軸を「復興支援道路」と位置付けている。

2. 復興道路の全線開通までの歩み

三陸沿岸道路、東北横断自動車道釜石秋田線、宮古盛岡横断道路は、平成23年11月に新規事業化されました。その後、事業展開上の拠点となる国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所が釜石市に開所され、平成24年11月には、事業化から一年以内に工事着手するという異例の「即年着工」が行われるなど、震災からの復興のために地域や関係機関の協力のもと力強く復興事業が進められてきました。

年月日	開通延長	発災から復興道路の全線開通までの主な出来事 ( :開通延長を示したグラフ)
H23.3.5	79km	三陸道「釜石両石～釜石北」が開通。3.11の被災直後には「命の道」として機能。 TOPICS1
3.11	◇	宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の地震と大津波が発生。
4.30	◇	県が、閣議決定により設置された東日本大震災復興構想会議で「復興道路」の整備を要望。
6.25	◇	東日本大震災復興構想会議の「復興への提言」に、「太平洋沿岸軸(三陸縦貫道等)の緊急整備や太平洋沿岸と東北道とを結ぶ横断軸の重点整備」が掲載。
8.30	◇	国が、三陸道及び釜石道における未事業化区間のルートと出入口を決定。
9.7	◇	県が、宮古盛岡横断道路の未事業化区間における優先整備区間を選定し、その概ねのルートを公表。
11.21	◇	三陸道、釜石道、宮古盛岡横断道路の合計187kmが3次補正予算により国の事業として新規事業化。
H24.4.9	◇	事業展開上の拠点となる南三陸国道事務所を釜石市に開所。 TOPICS2
11.4	◇	釜石道「釜石～釜石西」の「即年着工」による起工式。 TOPICS3
11.18	◇	三陸道「宮古中央～田老」の「即年着工」による起工式。 TOPICS3
11.25	116km	釜石道「宮守IC～東和IC」23.7kmが開通。復興道路として初の開通。
H25.3.10	123km	宮古盛岡横断道路「釜川～川目」6.7kmが開通。同路線として発災後初の開通。
10.13	127km	三陸道「普代村第11地割～第16地割」4.2kmが開通。県内の同路線として発災後初の開通。
H26.8.24	◇	宮古盛岡横断道路「平津戸松草～区界道路」の起工式。これをもって県内の復興道路は全て着工。
H29.11.19	166km	三陸道「山田IC～宮古南IC」14kmが開通。震災後事業化された区間として初の開通。
H31.3.9	226km	三陸道「釜石南IC～釜石両石IC」14.6km、釜石道「釜石JCT～釜石仙人峠IC」6kmが開通。同2路線が接続し、沿岸と内陸が初めて高速交通体系で結ばれる。 釜石道 80km 全線開通
3.30	232km	宮古盛岡横断道路「宮古中央IC～宮古根市IC」3.3kmが開通。三陸道と宮古盛岡横断道路が接続。
R2.7.12	271km	三陸道「宮古中央JCT～田老真崎海岸IC」17km、宮古盛岡横断道路「宮古港IC～宮古中央IC」4kmが開通。宮古港と宮古盛岡横断道路が直結。
12.5	279km	宮古盛岡横断道路「区界～釜川」8kmが開通。道路では県内最長となる約5kmの「新区界トンネル」が供用。
R3.3.20	307km	三陸道「待浜IC～洋野種市IC」16kmが開通。
3.28	328km	宮古盛岡横断道路の「墓目～腹帯」7km、「川井～箱石」7km、「平津戸～岩井～松草」7kmの合計21kmが開通。 宮古盛岡横断道路 66km 全線開通
12.18	359km	三陸道「普代～久慈IC」25kmが開通。発災から10年で、 岩手県内359kmの復興道路が全線開通 。 三陸道 213km 全線開通



TOPICS1 「釜石の出来事」 ～子どもたちを救った「命の道」～

地震発生後直ちに避難を開始した釜石市の鶴住居小学校、釜石東中学校両校の児童・生徒らは、約1週間前に開通した三陸沿岸道路を使うことにより、旧釜石第一中学校へ無事に避難することができました。この道路は、通行不能となった国道45号の迂回路として機能し、避難路のみならず、地域の孤立解消を図る、まさに「命の道」としての役割を果たしました。

小中学校の児童・生徒たちの避難経路と浸水区域 (H23.3)

TOPICS2 「南三陸国道事務所の開所」 ～事業展開の拠点を設置～

平成24年4月9日、国は、復興道路の1日も早い事業の完成に向けた体制強化を図るため、「南三陸国道事務所」を釜石市に設置し、三陸道及び釜石道の整備を進めました。

南三陸国道事務所の銘板と台座 南三陸国道事務所開所式

TOPICS3 「即年着工」 ～事業化から1年以内の着工～

通常、事業化から工事着手するには4年程度を要しますが、国の尽力と、国・県・市町村間のスムーズな連携、復興にかける地元の協力と熱意により、事業化から1年以内に工事着手するという、異例の「即年着工」が行われました。

H24.11.4釜石道(釜石～釜石西)起工式 H24.11.18三陸道(宮古中央～田老)起工式

図2 発災から全線開通までの主な出来事 (出典：いわての復興道路)

3. 復興道路開通による効果〔直接的効果〕

(1) 都市間所要時間の短縮

岩手県は本州一の面積を有し、北上山地により県の東西は分断されています。また、三陸沿岸部はリアス式海岸により複雑な地形を呈しており、都市間の移動に時間を要していました。

復興道路が全線開通し、東北縦貫自動車道と一体となり、県内の縦軸、横軸となる高規格道路ネットワークが完成し、都市間の移動時間が大幅に短縮されました。

道路利用者からは、「ワープしたかと思うくらい、移動が速くなった。夢のようだ。」などの声をいただいています。



図4 復興道路完成後の都市間所要時間の変化

(2) 災害に強い道路

山沿いへのルート選定や沿岸部を高架橋にすることで、東日本大震災津波の浸水区域を回避する災害に強い道路です。



図5 津波浸水区域を回避する三陸沿岸道路

4. 復興道路開通により期待されるストック効果〔波及効果〕

(1) 港湾の利活用を支援

復興道路の開通により沿岸から内陸の工業団地へのアクセスが向上しました。

釜石道の整備に合わせた港湾のポートセールスなどの取組により、令和元年には過去最高のコンテナ取扱貨物量を記録しました。

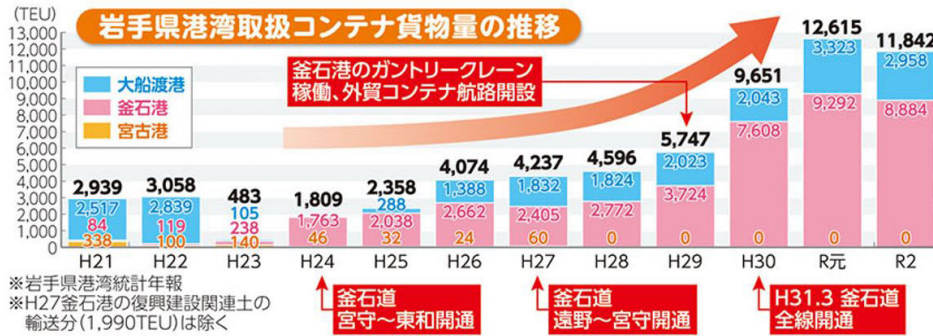


図6 岩手県港湾取扱コンテナ貨物量の推移 (出典：いわての復興道路)

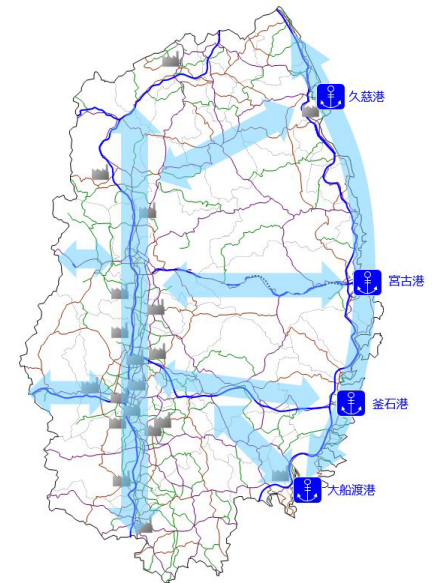


図7 重要港湾位置図

(2) 企業立地を支援

沿岸と内陸の中間地点に位置する遠野市では、市内を拠点とする企業立地が進んでいます。

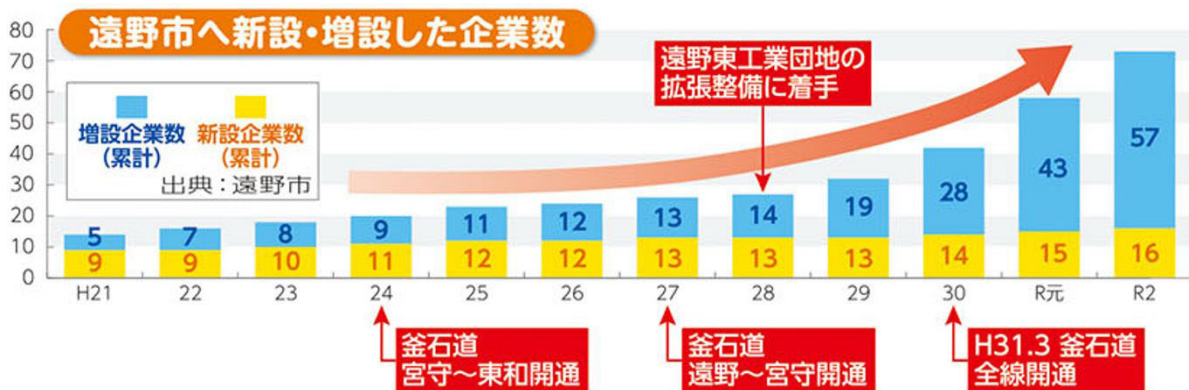


図8 遠野市へ新設・増設した企業数 (出典：いわての復興道路)

(3) 第三次救急医療機関へのアクセスを支援

救急医療体制の整っている第三次救急医療機関は、岩手医科大学付属病院、県立大船渡病院、県立久慈病院の3箇所が指定されています。復興道路の整備により、第三次救急医療機関へ60分以内で到達できる人口が大幅に増加しました。

また、岩手県沿岸部はリアス式海岸の急峻な地形であるため、近傍の病院へのアクセス路に急カーブ・急勾配が多数存在し、患者に大きな負担が生じ、搬送中の応急処置にも支障がありました。復興道路の整備により、搬送時間の短縮の他に急カーブ・急勾配区間が解消し、患者の負担も軽減され、まさに「命の道」として機能します。

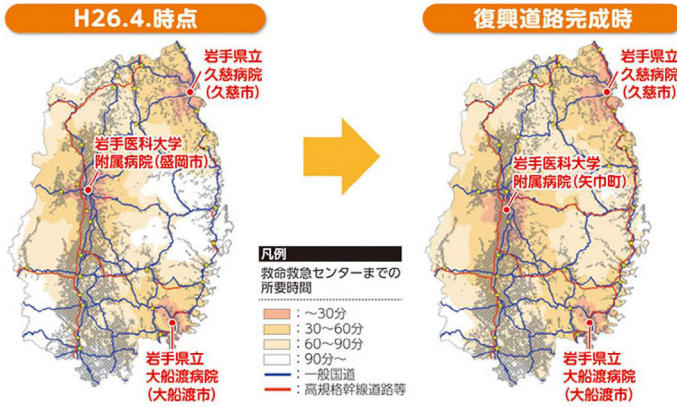


図9 第三次救急医療機関への所要時間

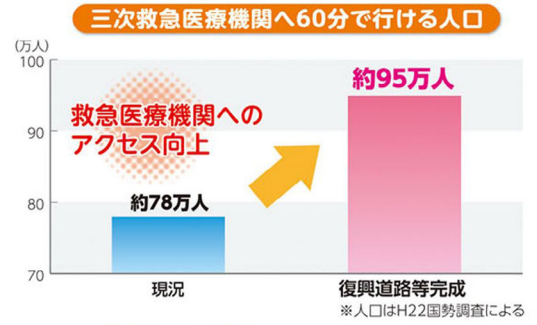


図10 第三次救急医療機関へ60分で行ける人口

(4) 三陸の観光振興や震災伝承に向けた取組を支援

三陸ジオパーク、三陸復興国立公園、みちのく潮風トレイルなどの魅力的な地域資源を生かした観光振興や、国土交通省、被災4県1市で発足した「震災伝承ネットワーク協議会」などによる震災伝承に向けた取組を支援します。



図11 観光地、震災伝承施設の位置図

5. おわりに

今後、復興道路は、物流、観光、救急医療、防災など様々な面で効果を発揮し、復興を力強く後押ししていくものと確信しています。

岩手県としては、国や市町村、関係者の皆様と一体となって復興道路を活用しながら、「いのちを守り海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」を目指し、住む人と訪れる人の幸福を増すことができるよう、全力で取り組んでまいります。